

広報おんな

平成7年6月15日発行 (No.178) 恩納村役場 総務課 TEL(098)966-8006



新庁舎建設現在地拡張案

現在の敷地の4.4倍を計画 駐車場スペース176台分を確保

- ◆役場庁舎区域整備計画構想
- ◆近隣公園及び社会教育施設整備計画
- ◆総合運動公園施設整備計画構想
- ◆万座毛恩納海岸散策道計画構想



青と緑の豊かな活力ある村

行事予定 (5月31日現在)

6月	
11日	●バドミントン大会 (村体協)
12月	●暴力団組事務所撤去住民総決起大会 (石川地区)
13火	●五月ウマチー 村県民税 第一期分徴収 (瀬良垣 太田 恩納)
14水	●離乳食実習 婦人の家 午後2:00~4:00 村県民税 第一期分徴収 (前兼久 仲泊 山田)
15木	●開放リハビリ リハビリ室 午後2:00~4:00 村県民税 第一期分徴収 (真栄田 塩屋 宇加地)
16金	●デイケア ●中体連総合体育大会~18日まで
17土	
18日	●父の日
19月	
20火	●村議会定例会 ●住民健診 (安富祖) 午前9:00~11:00
21水	●集団リハビリ コミュニティーセンター 午後2:00~4:00
22木	●一歳児歯科検診及びフッ素塗布
23金	●慰霊の日
24土	
25日	●ボウリング大会 (村体協)

26月	●住民健診 (瀬良垣) 午前9:00~11:00
27火	
28水	
29木	●農業委員会総会
30金	●DPT予防接種② コミュニティーセンター 午後1:00~2:30
1土	●日本脳炎予防接種 (コミュニティーセンター) 午後2:00~4:00
2日	
3月	●恩納村ゴルフ選手権大会 ●区長会県外研修 7日まで
4火	●生徒指導推進会議
5水	●村学校教育推進部会
6木	●開放リハビリ リハビリ 午後2:00~4:00
7金	
8土	●村P連研修会
9日	
10月	●議員県外研修 (徳島県 宮崎県) 14日まで
11火	

恩納村の人口

平成7年4月末現在

人口	9,072 (20)
男	4,644 (11)
女	4,428 (9)
世帯数	2,838 (12)
	() 内は前月比

男女雇用機会均等法

均等法 10年
活かしていますか 女性の能力



新庁舎建設 現在地拡張案

現在の敷地の4.4倍を計画

新庁舎の建設計画は「青と緑の豊かな活力ある村」づくりの拠点施設としての重点施策のひとつであります。

現在の役場庁舎は、戦災復興の厳しい時代の昭和33年に建設されましたが、我が国の高度経済成長と共に自治体の整備拡充、国復帰による諸制度の変革の中で新しい住民ニーズに応えるため増改築をし、村行政の拠点として自治を進めてまいりました。

また、時代の推移と共に行政需要も旺盛になり、行政需要の変化、サービス機能の多様化に伴い、事務室が狭隘化し、住民サービスや事務能率の面で大変支障をきたしている現状である。更に建物の老朽化が著しく危険な状態であり、その対策も早急に講じなければなりません。

このような諸問題を改善し、村民サービスの向上と効率的な行政運営を図るためにも、早急に新庁舎を建設する必要があります。

なお、役場庁舎区域整備計画構想の基本理念に基づき総合的な地域整備計画を後期基本計画に具現化していく方針であります。

現在地

2.260㎡(683坪)

拡張予定地

7.705㎡(2,330坪)

役場庁舎区域整備計画構想

水辺の児童公園

中規模文化ホール

青と緑の豊かな

活力ある村づくりを

— 新庁舎の建設を計画 —

庁舎位置の選定について「現在地拡張」か「屋嘉田潟原埋立」かで、村当局は、広聴会で意見を聴取するなど、多角的に調査、研究を行い議会と討議を重ね意見調整を行ってきたところですが、いまだに結論に至っておりません。

そこで、庁舎建設について村の基本方針や審議経過、問題点等の顛末を紹介いたしまして村民各位のご理解とご協力を賜りたいと思います。

庁舎建設に向け始動開始

平成元年四月一日、庁舎建設に関する基本的な計画を策定するため、内部組織として「庁舎建設基本計画策定委員会」を設置し、庁舎建設の基本構想及び庁舎の建設位置に関する候補地の調査、研究を行い、その結果をまとめました。

新庁舎建設委員会

現在地拡張案、屋嘉田潟原埋立案を

村長へ答申

平成三年十月二十五日、村長の諮問機関として、庁舎建設委員会（委員十八名）を設置しました。同委員は、村域及び県内外の先進地を視察研修・調査・研究を実施し、極めて慎重に審議を尽くしました。

庁舎建設基本構想においては、基本理念、建設の目的、建設の基本方針、建設位置の基本的条件等を明確にして答申した。また、庁舎建設位置選定については、村長から諮問のあった四候補地から「現在地拡張案」、「屋嘉田潟原埋立案」について双方とも甲乙付け難いとして、委員会の意見を付して二案が村長へ答申されました。

村民の声を聴く

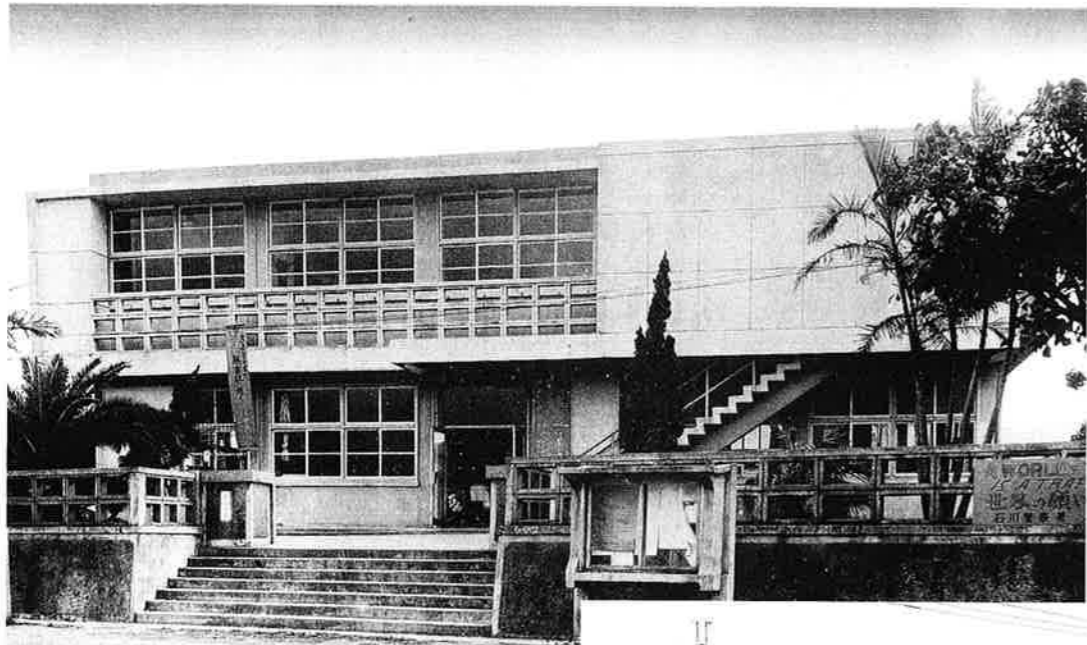
村当局は、建設委員会の答申を受理し、庁舎建設基本構想に基づき「現在地拡張案」と「屋嘉田潟原埋立案」について、広く村民の意見を聴取するため、村内有識者及び四校区において広聴会を開催しました。

両案について出席者から多くの意見要望がりましたが「屋嘉田潟原埋立案」を望む意見が多数でありました。

現在地拡張が適地

村長が意思表明

村長は、答申があった「現在地拡張案」と「屋嘉田潟原埋立案」について庁舎建設基本計画策定委員会や学識者等の意見を聴取し多角的に調査検討を行い村民の利便性・他の公共施設との関係・現在地の四、四倍にあたる九、九六五㎡（三、〇二三坪）に拡張して建設計画をすることを庁議に諮って決定し、平成六年六月定例議会において意思を表明したものであります。



1958年頃の恩納村役場庁舎



現在の庁舎は何度となく増改築が行われてきた

庁舎の建設位置については、村民の皆様にご説明申し上げ、併せて議会との意見調整を積極的に進め、コンセンサスが得られるよう努力致します。

尚、平成十年は村制九十周年と恩納間切生誕三百二十五年の記念すべき節目の年にあたります。

村におきましては、その記念事業として位置づけ一日も早く新庁舎を完成できるように鋭意努力していく所存であります。村民各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

新庁舎は村制九十周年までに完成

このようなことから屋嘉田潟原は、沖縄海岸国定公園内でも優れた自然環境であり、自然の保護保全を推進する海域であります。ちなみに、国においては公園内の水面の埋立又は、開拓は、学術研究上必要と認められるもの以外は許可しない管理運営審査指針があり、許可を得るためには関係機関との調整に長期を要し難渋することが予想されます。また、同海域は増養殖漁場として高く評価され「資源管理型漁場」の拠点として位置づけられています。

現在地は、既存の公共施設（コミュニティセンター、消防分遣所、郵便局、診療所）や公益施設（JAやんばる恩納支所、集出荷場、銀行）に近く、村民にとって大変便利であること。また自然環境に及ぼす影響が少なく、恩納岳や万座毛など村のシンボル性が創造できる風情があり本村の人口重心エリアとして、教育文化・産業経済の活性化の拠点となり得ると考えます。

あります。

本村の雄大な自然環境は、海と山の一体となった美しい集落景観をかたちづくり、豊かな産物をもたらしてきました。祖先から受け継いだ自然を守る姿勢の中で本村の今日の自然を育み農林漁業を育て、観光リゾート産業が可能になったことを考えると、生きるための自然の活用は、有効にかつ最小限に止める必要があります。また、この豊かな自然を後世に引き継ぎ自然と調和する産業及び土地利用を村民の英知を結集して、今後は本村の自然特性を熟知し最小限に活用できるような自然環境調和型の産業形態を構築する必要があります。

自然環境と村民の利便性に配慮

このような趣旨から、新庁舎の位置は、その機能が適切に果たされるものとし、公衆の利便性・自然環境の問題・村財政（村民負担）と今後の事業推進など、将来の動向を勘案しつつ慎重に考察した結果、新庁舎の建設位置は現在地拡張が適地と判断しました。

庁舎は、将来の行政需要の変化に対応できる機能を備え、さわやかな行政サービスが提供できるゆとりと潤いのある快適な耐用性を有するとともに、併せて二十一世紀を展望した視野のもとで多様性、柔軟性のある、量、質ともに充実した良好で健全な環境の形成や文化の創造に貢献していくことが必要とされる。

又、本格的な高齢化が急速に移行しつつある中で「村民一人ひとりが真の豊かさ」を実現できる村民共有の資産として、更に地域社会の中核施設のひとつとして、周辺環境・地域社会に対しキメ細かに配慮し、また、本村の歴史・文化・産業・経済の活性化に、積極的に寄与していく事が必要です。

庁舎は、村民に親しまれ、公衆の利便、公務効率の増進、行政サービスの向上を図ることを基本として、行政機能が十分に発揮できる施設でなければなりません。

歴史・文化・産業・経済の活性化を



屋嘉田潟原は増養殖漁場として高く評価されている

構想を策定するにあたって

恩納村は本土復帰直後の一九七四年に、長期的かつ計画的な行政の指針となるべく最初の総合計画・基本構想を策定し、「人間尊重」に基づいた「快適で豊かな田園都市」を村の将来像に掲げるとともに、これらの構想を実現するために、昭和五十二年度に基本計画を作成し、着々とその成果をあげてきました。

また第二次基本構想では本村の将来像を「青と緑の豊かな活力ある村」とし、前期基本計画は、目標年度を昭和六十一年度に設定し具体的施策を明らかにした。ひき続き昭和六十二年には高齢化、国際化、都市化など村内外をとりまく社会経済状況の変化、並び多様化、高度化するニーズに対処し、基本構想の実現や地域の調和のある振興をめざして、総合的なむらづくりに邁進してきたところでもあります。

第一次・第二次基本構想に基づく村づくりの具体的な課題は、二十七年間の長期に渡る米軍統治下による、生活関連基盤整備の遅れからの脱却、本土との格差是正を目標とした事業、いわゆる道路、排水路、農業基盤整備等、ハード面を重視した事業の展開であった。それは一定の成果を生んだとはいえ、背景としての社会経済情勢は、高度経済から低成長時代へと移行し、高齢化、国際化、都市化が進展する一方、バブル経済の崩壊等と取り巻く内外情勢は、激動を繰り返してきた。

こうした情勢のなか住民意識も多様化、高度化し、住民ニーズに 대응していくための事業の内容も多様性が求められる状況になり、ハード面とソフト面の調和の取れた事業の展開、特に文化施設や、住む人にとってやさしい村づくり・誇りをもてる村づくりが今後の課題であろう。

本構想はこうした状況を踏まえ、四点から構成され、第一次基本構想の「快適で豊かな田園観光村」、第二次基本構想の「青と緑の豊かな活力ある村」、それぞれの理念をより豊かに発展させる村づくりに寄与するものとして検討したものであります。

- 役場庁舎区域整備計画構想
- 近隣公園及び社会教育施設整備計画
- 総合運動公園施設整備計画構想
- 万座毛恩納海岸散策道計画構想

役場庁舎区域整備計画構想

恩納岳の女性的な稜線と 雄大な万座毛との調和

役場庁舎一帯の整備計画を構想するに当たっての視点は、地理的好条件と自然環境を踏まえたうえで、恩納村のイメージアップとなるような環境整備と将来への波及効果、又は役場庁舎の機能の効率化と、道路アクセスの整備、各公共施設との有機的結合連携であろう。したがって本計画構想は庁舎一帯の自然や地理的好条件に立脚し検討を練るものとする。

恩納岳の奥深い山懐に抱かれた水は、沢を伝い一旦は、当袋、恩納、志嘉座のそれぞれのダムに淀むが、下流へと押し下ると田畑を潤し海へと放出する。

熱い日照りが続き干ばつになるうとも、恩納岳の恵の水は枯れて枯れることなく、当袋や目座の田は一年中水をたたえ、実りの季節ともなると稲穂は黄金色に輝き、収穫に追われる村人の歓喜が一带を支配した。こうした光景は時代とともに土地改良によって、田から畑に移り変わったとはいえ、豊かな水の恵は現在にかつてを伝えている。

都市化が進行し緑や自然が急速に失われつつある中部圏から、自然が豊かに残る山原との玄関口にあたるわが村は、一時期リゾート開発が激化したとはいえ、なお、豊かな自然に

育かれた県内有数の景勝地である。分けわが村のシンボルである恩納岳の女性的な稜線と、雄大な万座毛との調和は、訪れる者の心をとらえてはなさない。役場庁舎も恩納岳の山麓に抱かれた清流と田園のコントラスト、いわゆる恩納村のシンボルイメージの中に立地していることから、役場を訪れる者が自然と私たちの村の風情を実感し、また景勝地や自然散策に赴くことを可能とすることが本構想の視点であろうと思われる。

またそれは当然にも庁舎の機能化、効率化をより合理的に展開する点からも、道路アクセス等のハード面の整備を図り、各公共施設との連結も重要である。

したがって本計画構想のポイントを、次の6点について構想を練ってみた。

① 役場庁舎やコミュニティーセンターを補完する文化施設

② 水辺の児童公園

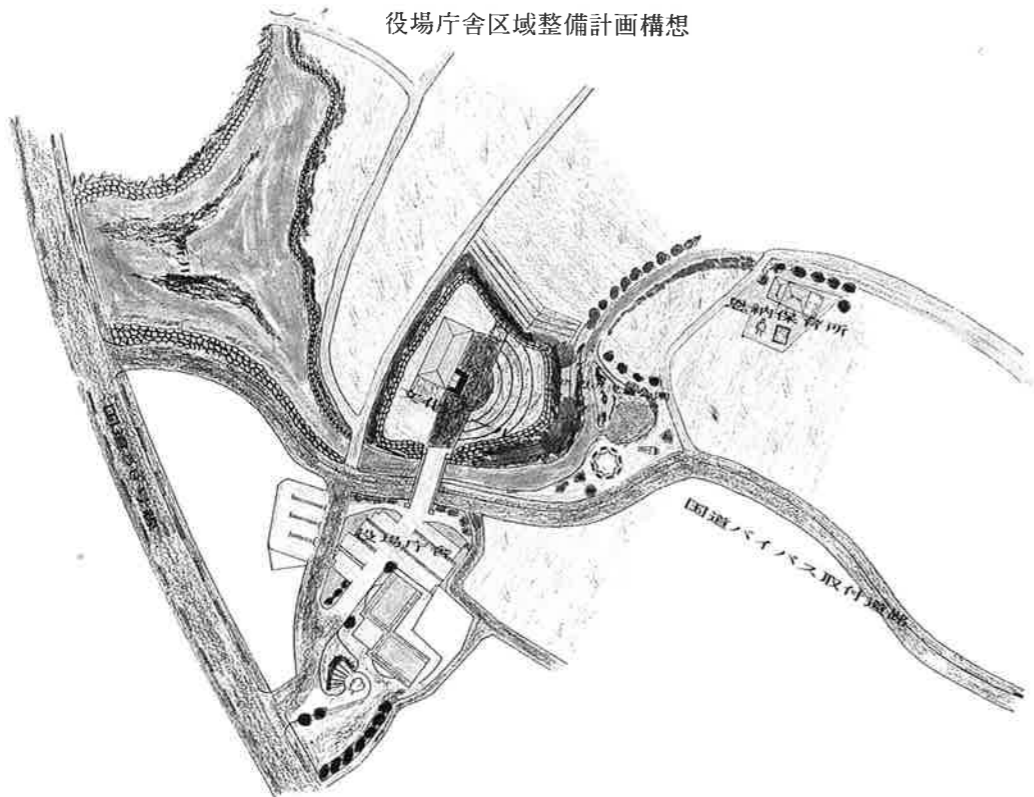
③ 国道バイパスへの取り付け等の道路整備

④ 新たな集落形成

⑤ 長期将来計画としての当袋、恩納、志嘉座のダムを散策道で連結した花卉植栽による花祭イベントへの展開計画

⑥ 地理的好条件を生かした熱帯果樹及びみかん等の観光農園の振興造成と農家の育成

役場庁舎区域整備計画構想





新川と文化ホールが立つ丘

水辺空間は、水と緑の貴重なオープンスペースとして地域社会に潤いと安らぎを与え、村の景勝形成や余暇の有効利用などにおいても重要な役割を果たしており、特に最近ではむらづくりと一体的に水辺空間の整備を図ることが社会的な要請となっている。

建設省において昭和62年度からの、第7次治水事業5箇年計画では「うるおいとふれあいのある水辺環境の形成」を目標に水辺空間の創出を図るため「ふるさとの川モデル事業」を創設し、積極的に事業を推進しているところである。したがって、本村のシンボルの河川でもある新川も、役場庁舎、文化施設、保育所等の公共施設と一体となるような良好な水辺空間の形成を図ることが望まれる。

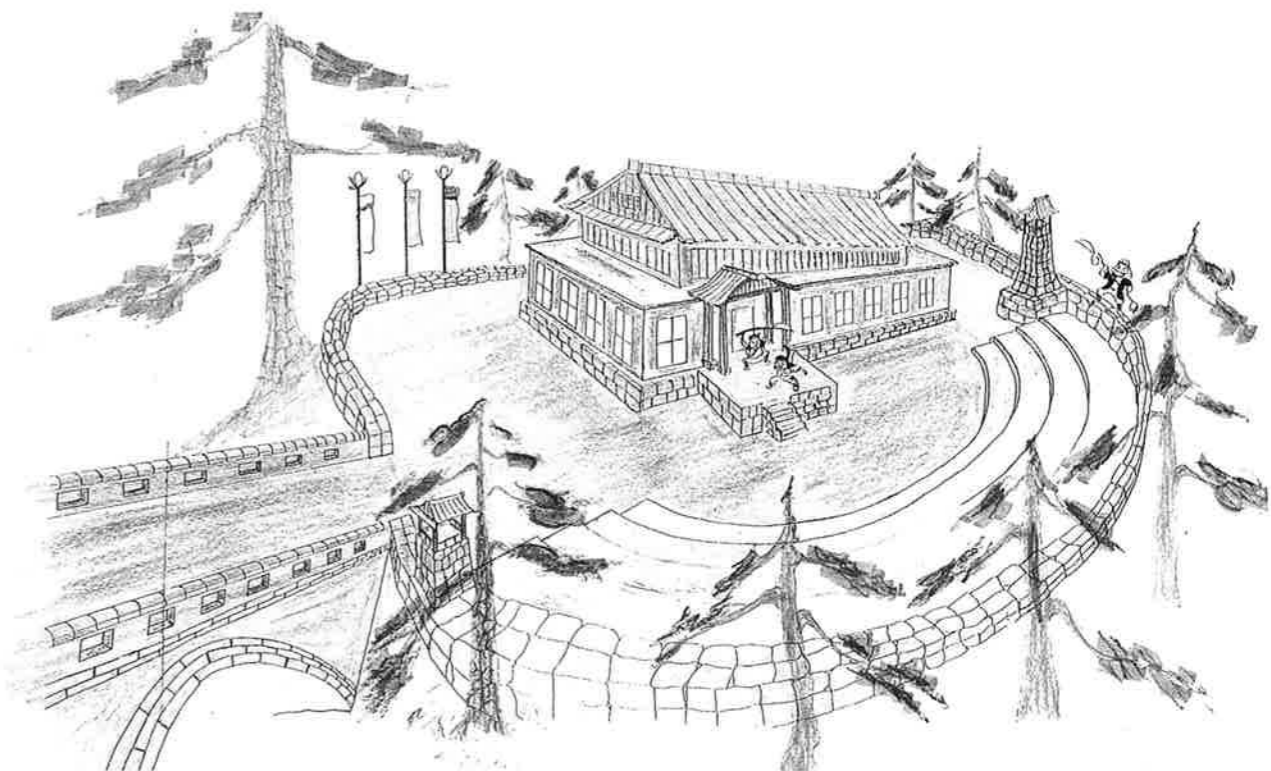
幸いなことに、県北部土木事務所によって、新川下流部にあってはモデル事業として実施中であるが、同計画では、下流部以外は従来の間知ブロック工法となっているため、少なくとも保育所付近までは、水性動植物の生育が可能で、かつ子供達が水と戯れ魚や植物にふれながら、安全に自由に遊ぶことのできる近自然河川工法として整備するよう要請することが望まれる。(企画課にて北部土木事務所へ要請)

水辺の児童公園

子ども達が水と戯れ
自然に親しむ

び、村内各種団体の懇親会、パーティー等にも活用できる多目的ホールである。

また中庭はすべて野外ステージとし、城壁に設置される物見やぐらは単なるデザインではなくステージのスポット照明装置であり、400〜500席規模のコンサート及び伝統芸能、いわゆる村芝居や組踊り等の公演の場として広く活用されるものであると共に、教育委員会としても活用可能な事務所及び、会議室、和室等最小限の機能を備えたものである。



野外ステージでは組踊を上演

中規模文化ホール(仮称) 文化環境の拠点に

近年県内における各種文化事業はますます活発化し、佐敷町のシユガーホールが典型的なように、都市部から町村部へと県内全域において、それぞれの個性豊かな文化活動が展開されている。こうした状況を受け、近隣市町村においても大規模な文化施設の建設が活発である。

本村においても、コミュニティセンターを活用しての文化展、演劇、各種講演会等が盛んであるが、こうした状況をふまえ、さらに住民自身の自主的文化活動をより啓発するためには、それぞれの活動に対応する施設の整備が望まれるところである。

私達が本計画を構想するに当たり、近隣市町村の施設を視察及び研修し実感したことは、具体的な年間利用計画が練られていないため、人口に比して規模が大きく立派な施設は建設したものの稼働率が低く、維持管理費の負担を招いている現状が見受けられることである。

したがって当該施設はコミュニティセンター及び役場庁舎の機能をあくまでも補完し、多目的用途に対応する機能集約型の中規模ホールを備えた施設である。

現在、恩納村においてホールを備えた施設はコミュニティセンターのみであるため、文化展、講演会、演劇等、規模の大小を問わず、それらの催しは同ホールにて展開されているが、最大収容規模が、800名のホールであるため、200名程度の催しであっても座席の出し入れ等で不便をきたしたり、また文化展においても広い空間であるため集中性に欠けたりする側面もある。

したがって、本計画の中規模文化ホール(仮称)は、収容規模250名とし、ホールのステージ及び座席は、階段式の電動により自動開閉方式とし、平日は平面スペースの文化展及

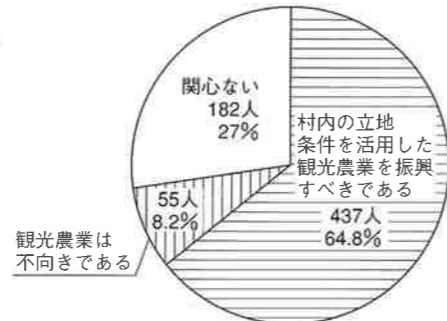


一 [恩納村農協組合員意向調査] 一

問9. 観光農業についておたずねします

観光農業を振興すべきであると答えた方々は437人（64.8%）で強い関心を示している。

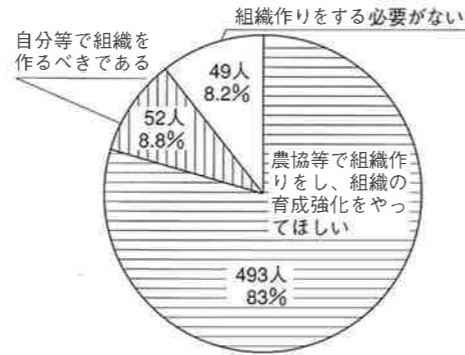
課題…地域ぐるみの振興対策とリーダー養成、相談窓口の設置



問11. 観光農業を進める場合の組織についてどう思いますか。

地域の産業として新しい事をするには、農協や役場等で育成した方が良くと答えた方々が83%もいる。

課題…リーダー養成



ダム周辺に花卉植栽 花祭イベント計画

リゾート村としてのイメージアップ

花卉の栽培農家の活性化

桜の花が咲きはじめる、山原の森は新緑に覆われツツジやイジユの花々が一斉に開花する。こうした季節になると、春を求める中南部からの都会人達は、山原路へと繰り出し、特に休日ともなると、桜祭りやつつじ祭りが開催される本部町、名護市、東村と花見客が押しよせ、交通渋滞は恒例となる。のんびりとした気分での花見ドライブも渋滞に巻き込まれ、目的地での滞留時間は失われてしまいほとんど期待は裏切られてしまうのである。

沖縄本島のほぼ中央に位置する、私たちの恩納村は、那覇から国道58号線を利用すると約1時間30分、また高速道路を利用すれば30分程度で到着する地理的条件にあり、特に丘陵地から眺望する海岸線の風景は、県下有数の景勝地である。こうした恵まれた条件を活かした花祭イベントに向けた、長期植栽運動の展開は、「青と緑の豊かな活力ある村」の理念をさらに、色彩豊かな長期滞在型の潤いある、リゾートの村としてのイメージアップになるばかりか、農家の花卉栽培等の活性化にもつながり、恩納村の将来にとって普遍的可能性をもつものと期待される。

熱帯果樹みかん等 観光農園と農家育成

体験農業学習の展開

昭和62年3月に、恩納村農協によって実施されたアンケート調査によると、本島の中南部市町村からの恩納村への期待は、みかん狩りや体験農業学習など、豊かな自然の中での山地や農地を利用した観光農園への期待は大きい。特に中南部からの利便性が高いことで滞留時間が充分確保できる点が魅力となっている。

また、村内農家への意向調査においても「村内の立地条件を活用した観光農業を振興すべきである」と答える人が64.8%と最も期待の大きいことを示している。

こうした結果を受けての同アンケート調査の「観光農業を進める場合の組織についてどう思いますか」の設問に対し、地域の産業として新しいことをするには、農協や役場で育成した方が良くとの答えが83%も占めている。このように恩納村の地理的、あるいは地形的特質を活かしての、農協や役場が主体となったところの観光産業の推進に対する農家の期待は大きいものがある。

特に農家の高齢化が進み、また学校週休二日制の導入の社会的動向にあつて、将来を展望する農業の基本理念は、収益の上がる農業、シルバー人材を活かした楽しめる農業、熱帯果樹の観光農園であろう。いわゆる、サトウキビ農家の高齢化によって農業離れに歯止めをかけていくためにも、農業技術の高いシルバー人材を家庭菜園的、少量多品目野菜の栽培に転換し、また、こうした人材を活かしての、一坪体験農業の推進によって、都市部の人に、あるいは小中学校の週休二日制を利用した体験農業の展開は、高齢化に伴う老人福祉政策としても、また、子供達の社会教育の場としても効果を生むものである。

少量多品目野菜の生産、観光と有機的に結び付いた様々な果樹等の栽培は、観光客や中南部の住民の要望にも応えうるものであり、ふれあい市での販売活動などによって本村の農業に活性化を生むものである。

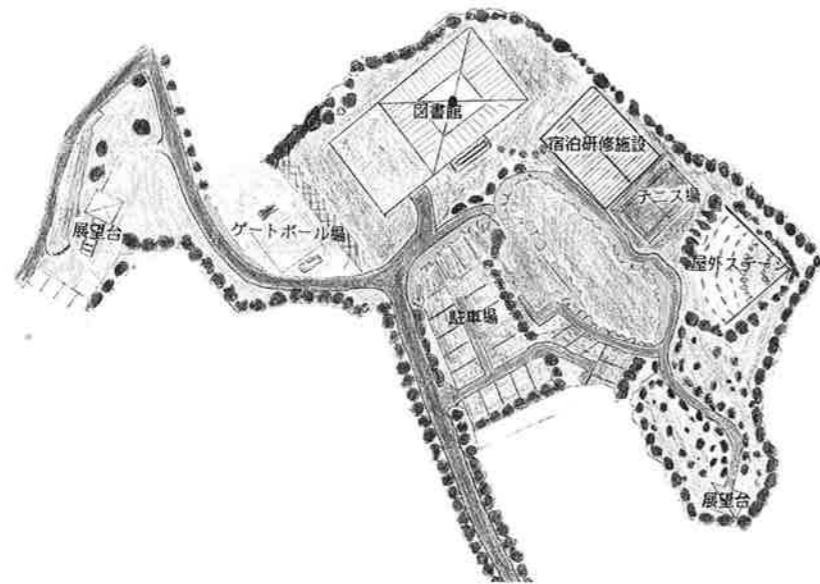


うんな農業まつり



恩納岳の恵の水（恩納ダム）

近隣公園及び社会教育施設整備計画



本事業は、恩納村のほぼ中央に位置する、南恩納赤崎原の丘陵地を整備し、近隣公園を含む社会教育施設を建設するものである。

本村の産業基盤は、農業及びリゾート産業で第一次、第三次産業が主であるが、特に農業は近年、花卉、園芸等の増産が顕著で、若者の農業志向も高まり、また県下最大のリゾート観光地としての雇用効果も増大したため、若者達の地元定着率が以前より高まったために減少傾向にあった人口は、平成2年より微量ながら増加傾向にあり、今後もこうした傾向が続くものと思われる。

こうした状況にあつて本村もまた、27年間もの長期に渡る米軍統治下における住民生活の基盤整備の遅れから、住民生活に直結する道路、排水路、農業基盤整備等、ハード面を中心に復帰20年に渡って実施してきたところであり、現在ではほぼ生活関連重視の事業は完結に到りつつあります。

今日社会的多様化が進むに伴い、行政による住民サービスの多様性が望まれる状況にあつて、とりわけ山原と中南部との玄関口に当たる、リゾート観光地が村にあつては、自然環境の保全を図りつつ、潤いのある文化村創りのための事業が強く望まれてきました。

こうした要請を受けての本事業は、青少年の一層の健全育成と、また地域住民のふれあいを高め、安心して安らげる地域環境整備を図っていくための事業として位置づけるものであります。

本計画地が恩納小中学校、南恩納公民館とも隣接した場所であるため、児童生徒の遊び場として、また役場庁舎から1.2kmで、かつての恩納中学校跡地でもあるだけに、図書館や宿泊研修施設を配し、小中学生の夏季合宿や、青年会、婦人会、老人会による、生涯学習など、社会教育の場として利用されることが期待されます。



子ども会の野外活動



道路アクセス

庁舎と国道バイパスを連結

近年の著しい交通量の増大によって、国道58号線の渋滞が激しくなるばかりであるが、こうした状況に対応するための国道バイパス計画は、恩納村内の交通量の緩和や交通網の効率化はもとより、将来の土地利用においても大きな波及効果を生むものと期待される。したがって、役場庁舎と国道バイパスを連結する道路は、主要幹線道路、いわゆる道路構造令でいう3種4級の村道とし、線形は目座土地改良の農道を経由、恩納演習場への進入路を利用した法線とする。

また道路網の体的効率化を図るため、役場庁舎と公共施設との連絡道路及び恩納集落と小中学校を連結した勢高学道の整備を要する。

特定住宅整備計画

本村において、自然の地形的制限による宅地難を解消するために、平成4年12月25日に「恩納村土地画整理事業助成規定」を制定した。同規定の主旨は、健全な集落地の形成をもつて定住化政策を図っていくものであるだけに、地域要望は大きいものの、事業主体が地権者を中心とした組合への助成ということがあって、実運用には個別規制法によって困難をきわめている。したがって、本事業を実施するには、事業主体が公的機関(村や町村公社)で実施することが望まれるため、村有地内の立地条件が備わった場所に、今後の集落形成に見本となるような理想的宅地造成の形成を図っていくことが現実的であると思われる。

尚、本事業は、村及び町村土地開発公社が事業主体となり、分譲地を売却することによって、今後の要望地区への事業の展開にあつての事業費の捻出を図る。



国道58号線

青少年の健全育成 村民のふれあいの場



子ども会の宿泊研修は毎年安富祖公民館の施設で行われている

本村は民間リゾートホテル等の宿泊施設は多いものの、公共の宿泊施設が設置されていないため、各種団体や小中学生の課外活動に活用される施設の建設が望まれてきた。本施設は各種団体のリーダー研修をはじめ、小中学生の夏休み、冬休み、クラブ活動の合宿などに利用されるほか、図書館活動と密接不可分の施設として、子ども会などの映画会や読書感想画展、また万座毛散策道を利用しての自然散策の課外活動の拠点としての活用など利便性の高い施設である。なお、本施設は公園内に立地し多目的利用に対応する施設でもあるので、可能なかぎり潤いのある木造の建造物であることが望ましい。

宿泊研修施設

資料を集め、さまざまな年代、さまざまな要求に応じられる、本や雑誌、カセットテープやコンパクトディスクさらに郷土誌、地域資料を備え、だれもが気軽に利用できる施設でなくてはならない。

また、恩納村のように細長い地理的環境にあつては中央図書館から遠く離れた地域に住む人や図書館利用に障害のある人に対しては、自動車による移動図書館や配本サービスなどによって、各公民館図書館と有機的に連携し、きめ細かなサービスに努めなくてはならない。

また公園と宿泊研修施設を利用し、映画や子ども会といった各種行事に取り組むことも可能とする。

なお、図書館建設計画を進めるには、日本図書館協会施設委員など、外部専門機関に立案を委託しそこから提案されたものを、図書館長（予定者）とともに、住民、議会の代表者、自治体の長、図書館の専門家などが加わり、審議しながら検討を練っていくことが望ましい。



赤間運動場でのジュニアリーダー宿泊研修



子ども達とお年寄りの交流

図書館の建設計画を進めるに当たり、最も重要なことは計画を中心的に担い、また将来館長となる人材確保であり、専門的知識の修得できる人材育成である。

公共図書館が基本的な機能を十分発揮するには、人里離れたところよりは、人々が多く住んでいるところで、生活動線に接し、一人でも多くの人々が気楽に足を運べるような便利なところで、幼児やお年寄りが利用しやすいところ、いわゆる地域の人の身近にあつて、だれもが気軽に利用できるような日常生活にとけ込んでいけるような場所であることが望ましく、地域の人々が出会えるコミュニケーションの場になりうるかが機能を発揮するポイントであろう。

また、公共図書館を建設することによって、その地域の社会教育の環境が向上することを追求しなくてはならず、学校教育との有機的連携が図られることも重要である。生涯学習社会、情報化社会と呼ばれる状況にあつて幅広い

図書館

これまで本村においては、児童公園や社会教育施設が少なく、特に学校や公共施設に隣接する地域での、これらの施設整備が強く望まれてきたところがあります。

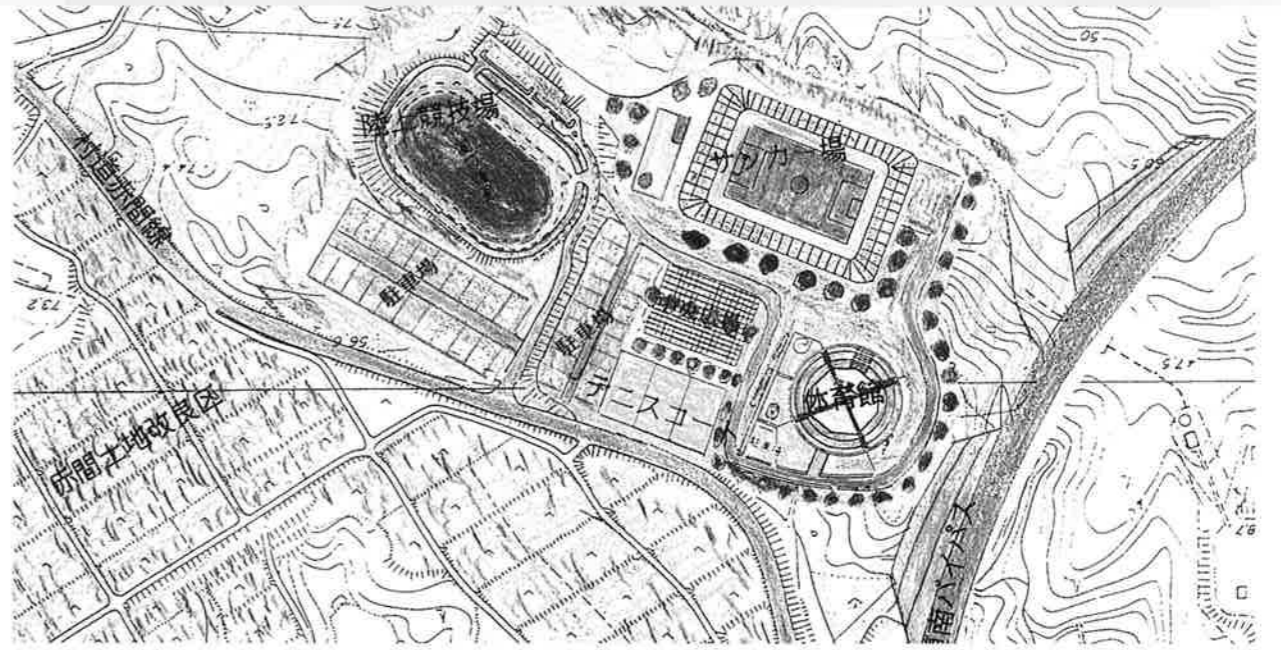
このような住民のニーズに対応する事業として計画するのであり、図書館、宿泊研修施設を兼ね備えた、コンビネーション遊具及びゲートボール場、園路を利用したピクニック広場、夕日が望める展望台などを配置した多目的な公園で、事業実施によって青少年の一層の健全育成と、村民の生涯学習の場として、また地域住民のふれあいをたかめ、安心して憩える地域環境の整備・推進に寄与するものである。

社会教育施設の整備を望む声



ゲートボール大会

総合運動公園施設整備計画構想



スポーツ施設の整備拡充を

昭和59年度に建設された赤間運動場は完成以来、スポーツやレクリエーションの場として幅広く村民に利用されてきました。

村民のスポーツに対する関心は高く、各字対抗の陸上競技大会等は盛大であり、また社会教育の一環として行われている各種スポーツ大会、講習会等が積極的に行われている。しかし多様化し増大する村民のスポーツ・レクリエーション活動に対処するためには、今後一層のスポーツ施設の整備拡充が急務であります。本県は温暖な気候・風土に恵まれ「観光・リゾート」として国内外から好評を博しており、中でも恩納村を訪れるリゾート観光客の数は県内でも群を抜いています。今後の、スポーツを織り込んだ観光もますます盛んであり、プロ・アマのキャンプ、合宿、大会なども実施され県民とのスポーツ交流が隆盛を極めつつあります。

沖縄県においても「スポーツコンベンション推進協議会」を設立してプロスポーツキャンプ受け入れ体制づくりに努めています。それらをふまえて村としても早急に受皿を作ってプロ・アマスポーツ団体を誘致し、村民との交流を図ることが村のスポーツ振興及び村おこしに役立つものと思えます。

交通の便と地理的にも村の中間に位置する赤間運動場周辺を整備してサッカー場、テニスコート、体育館等を配し、併せて屋嘉岳を遊歩道で結び公園化を計画するものであります。



体育協会主催による陸上競技大会



Jリーガーによる少年サッカー教室（赤間運動場）

商工会も誘致活動

プロサッカーチームの キャンプ地として

赤間運動場の周辺は広大な村有地が、北は国道58号線沿いから南は村境まで所在している。地形的には屋嘉岳を背景にしてその流域の中腹まで起伏が激しく、赤間林道の北側は、なだらかな丘陵地になっている。この地区を総合運動公園として位置づけ、北側の丘陵地に既存の赤間運動場を中心に、サッカー場、テニスコート、体育館を計画し、屋嘉岳から中腹、それらの施設を遊歩道で連結する。

ここ数年のサッカー熱は目覚ましいものがある。今やスポーツの第三勢力として、目が離せない存在である。しかもある調査によると、サッカー人気は今後も継続、定着するという回答が40%を占め最も多かった。

村商工会も誘致活動をしており、村内にシーズンオフのキャンプが定着すれば、サッカー人口の底辺拡大、青少年への啓発や観光など他方面でJリーグ効果が期待できる。

競技場の規模としては、公式試合の可能な縦105m横幅68mとする。

今後、村民のスポーツへの多様化と需要は一段と進み、とりわけ夜間スポーツの人口は増加傾向にある。それにサッカー場設置の条件として、雨天時にグラウンド練習場が使用不可の場合を考慮して筋力トレーニングルームが必要であり、それらに対処する為にも村営の体育館は必要不可欠である。駐車場については、少なくとも400台収容する広さを確保して、それ以外に対応するには村道沿いの造成地を利用することもできる。

それらの総合運動公園施設を整備することにより、スポーツイベント等の開催も可能になり、それらによる宿泊客の増加も見込まれ、村の経済活性化に役立つものと期待される。



今やサッカーは子供達の人気スポーツNo.1

万座毛恩納海岸散策道計画構想



美しい海辺の自然に触れて

万座毛恩納海岸の景勝地を住民が日常的に散策することのできる、「歩道と自転車道」。

対象となる範囲は、万座毛から南恩納、白雲荘を経由し谷茶に至る約2.5kmの海岸部分とその隣接地で、いわゆる恩納と南恩納集落はもとより、恩納小中学校、コミュニティセンター、赤間運動場、計画中の近隣公園等の個々の点在する公共施設を、万座毛をメインにして、美しい海岸の自然景観に触れる、点を線で結びつけた「万座毛恩納海岸散策道計画構想」である。

現在、沖縄海岸国定公園である恩納海岸は、放置された状態であるため、釣り人やレジャー車両等が海岸や海浜にまで乗り入れ、土砂の流出を招いているため、動植物に悪い影響を与えている。

こうした状況を踏まえ、本構想を検討するに当たっての基本姿勢は、恩納海岸の保護を念頭に、雑草木を除去する範囲の、巾員2.5M程度の歩道兼自転車道で、極力人工的構造物を使用することを避け、沿道には植栽を施すなど、自然に馴染む工法としなければならない。また、万座毛、ウドゥイガマ、一帯の海岸は、かつて村の古老達の歴史、文化と深く係わりのある由緒ある場所でもあり、日常的に自然散策できる空間の演出は、古老達の歴史文化の原体験となり、住民自身が自発的に、かつての万座毛恩納海岸の松林を再現する運動へと発展することが期待できる。更に雑草に覆われたり、車両の進入によって表土流出を招いている場所には、その土地に根ざし、立地条件に合った植物、いわゆる在来種の鉄砲百合、グラジオラス等の花を住民参加によって植栽運動を展開する等、四季の花を演出することも可能である。

本村が他に比して最も誇りとするものは、環礁に抱かれた海浜と、緑に覆われた恩納岳連山とが調和し、絶妙に織り成すコントラストの風情である。



本村はこうした地形的環境に着目して、昭和57年に「青と緑の活力ある村」を将来像とした基本構想を策定し、以来これを施設運営の指針としてきたところであるが、本構想は更にこの理念をより発展させようとするもので、いわゆる海岸線の自転車歩行者道としての自然散策道にとどめるものではなく、将来長期的には、国道バイパス計画と連動させる展望をもつものである。

恩納岳ふもとに点在する、当袋、恩納、志嘉座それぞれのダム周辺を、つつじや桜等、花の咲く植物、樹木を植栽し整備しながら、ダム公園として連係していくもので、文字通り海と山が調和のとれた「青と緑の村」としてイメージアップになるものと期待される。

近年国民の意識は単なる経済的豊かさの追求から、精神の豊かさ、すなわち、潤いやゆとりを求める方向に変化しつつある。

村づくりの面においても、豊かな自然、美しい景観、潤いとやすらぎ、歴史や文化などに対する関心が増大し、とりわけ村の中に自然や景観にふれながらの散歩やハイキング道は、近年の余暇時間の増大によって、将来においてもますます重要なものとなるであろう。

自然環境を生かした心豊かな村づくりは、将来自然散策や、桜、つつじ等の花まつりへと、各種イベント行事への展開を可能とする普遍的な可能性を秘めている。それゆえに今後ますます多様化するであろう観光に込められる、自然環境に恵まれた、長期滞在型の潤いのある村としての、リゾート地となることに寄与するものと期待する。

南北地区の新たなシンボル 形成の確立に向けて



県民の森、休日には多くの家族連れで賑わう

特に南部区域にあつては、山田城跡や仲泊貝塚など恩納村には数少ない「いにしえ」の史跡があり、山田城跡を「歴史公園」として整備することによって、これらの遺跡を生きた教材として、民俗資料館と有機的に活用を図り、南部地区のシンボル形成を図っていかなくてはならない。

北部地区にあつては何と云っても県民の森の特質を生かした事業の構想がテーマであろう。

近年のアウトドアブームもあつて、県民の森を利用したハイキングやキャンプ等の利用者は今後も増加するものと思われ、それらの利用者が混入可能となるような事業としては、県民の森に隣接する旧苗畑一帯を亜熱帯果樹や近年主婦の関心が高まっているラベンダーなどのハーブ類や、さまざまな植物が楽しめる、観光農園の立地条件として最も有力な環境にあり、その一角に、農作物の販売所を設けることによって、農家への波及効果が期待でき、また名嘉真区にある優良水田の遊休地を利用した一坪体験農場など、田園村としての環境整備を図りながら、農協とのタイアップによって果樹農家を育成しながら北部地域のイメージ形成を確立しなくてはならない。

本構想はこのような視点に立って、検討を練るものであるが、これからの村づくりのポイントは、住民参加が最も重要な課題でありますので、意見やアイデア等お寄せいただくよう期待するものであります。



名嘉真区の水田、ミカン栽培も盛んに行われている。

公共施設は施設の機能が 十分発揮できる場所へ



国の事業で「歴史の道」の整備が予定されている

公共施設が偏ることなく

沖縄本島のほぼ中央に位置する本村は、都市部の中部圏から、自然豊かな山原との玄関にあたり、地理的に自然景観にも恵まれた村である。ところが山が海に迫るような二十七キロメートル余の細長い地形に、十五の集落が広範囲にわたって点在するため、行政サービスとしての公共施設や、公共事業を公平に配置していくことに一定の困難が伴うことをしばしば指摘されるのである。しかしながら役場庁舎を基点とする地域のみですべての公共施設を配置すると、遠隔地に居住する住民への公平な行政サービスを欠くことになりかねなく、地方自治の理念及び原則に基づき、住民が公平で平等に行政サービスを受用できるように努めなくてはならない。

将来の村づくり事業を構想するにあたっては、公共施設が一区域のみに偏ることなく、また図書館や民俗資料館のように、その施設の機能を十分発揮できるような場所の選定や、立地条件にかなった地区への配置など、使用する住民の側に立って利便性に配慮することによって、住む人にやさしい、誇りのもてる村づくりを形成していくことが大きな課題である。

したがって、次のような総合的な事業メニューを考察していかなくてはならない。

- ① 役場庁舎とそれを補完する他の施設の配地
- ② 施設の機能を充分発揮するための適地選定
- ③ 南北区域それぞれの特質を生かした新たな村のシンボル形成

山田城跡 仲泊貝塚周辺に 歴史公園や民俗資料館

県民の森 旧苗畑に観光農園